

## 8.3 平面領域の面積

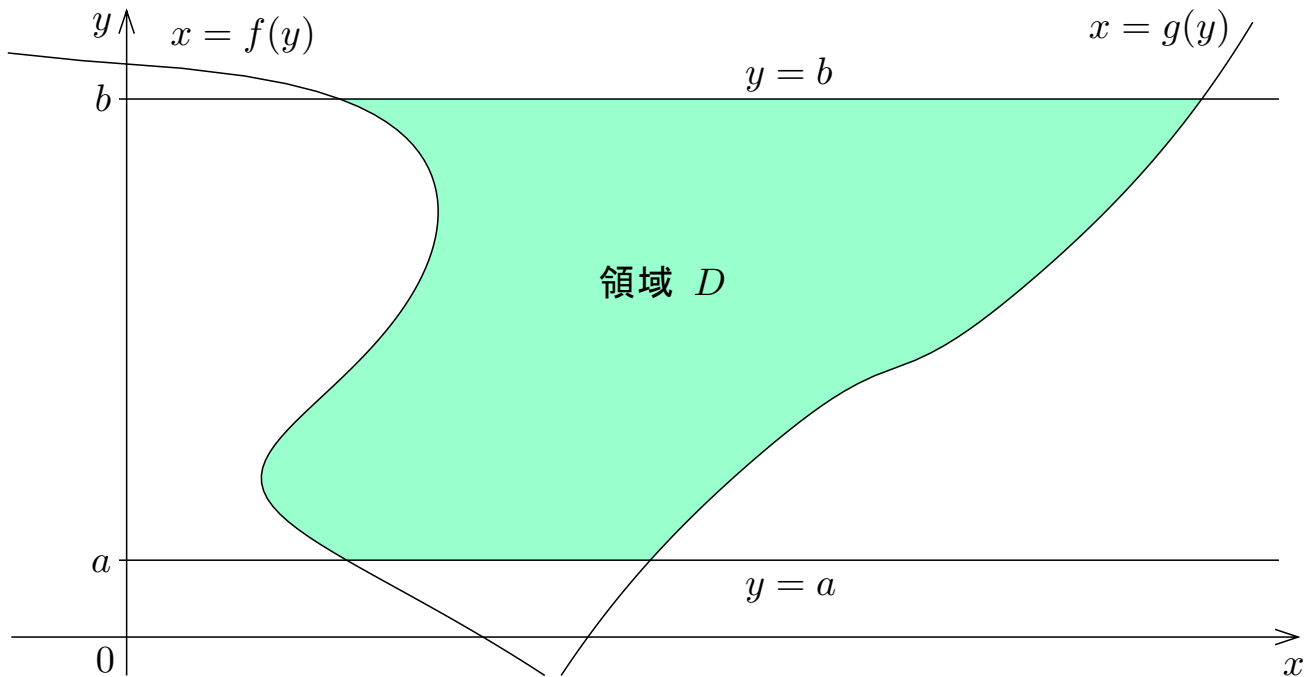
$xy$  座標平面における領域の面積を計算するために  $y$  で積分することがある.

実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  とする. また, 関数  $f$  と  $g$  とは  $a$  から  $b$  まで積分可能であり, 区間  $[a, b]$  の各実数  $y$  について  $f(y) \leq g(y)$  とする.  $xy$  座標平面において, 連立不等式

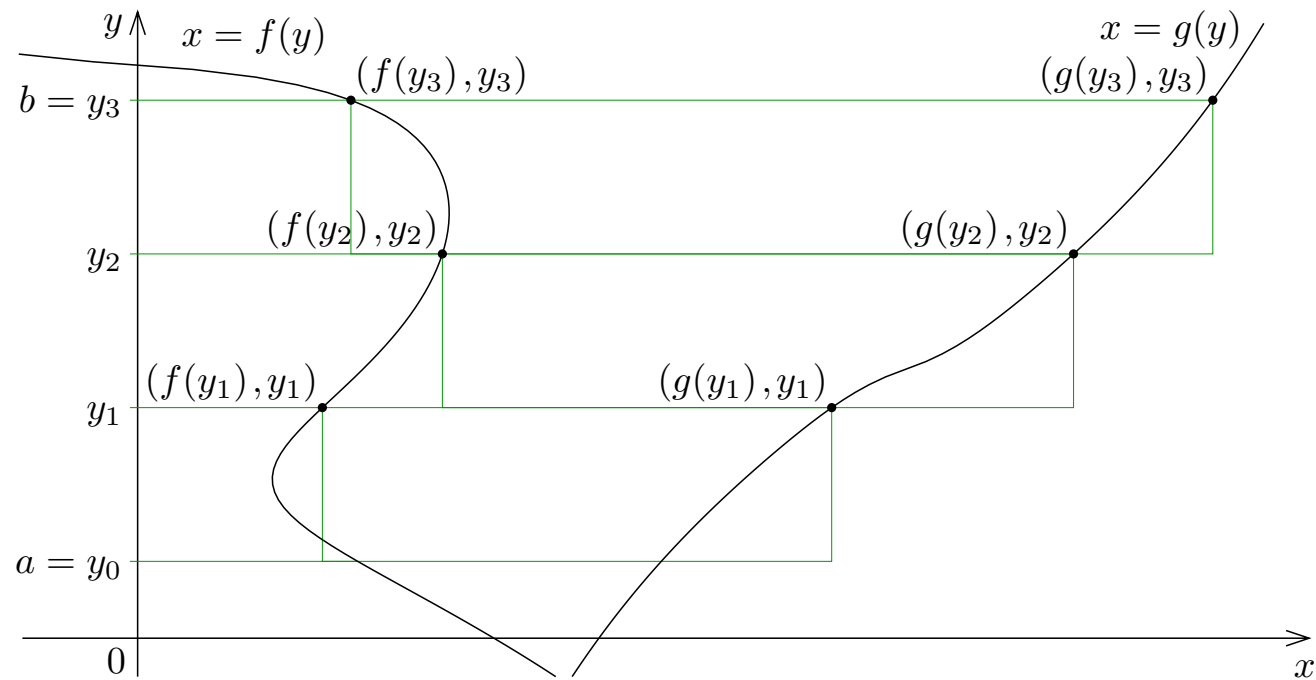
$$a \leq y \leq b \text{ かつ } f(y) \leq x \leq g(y)$$

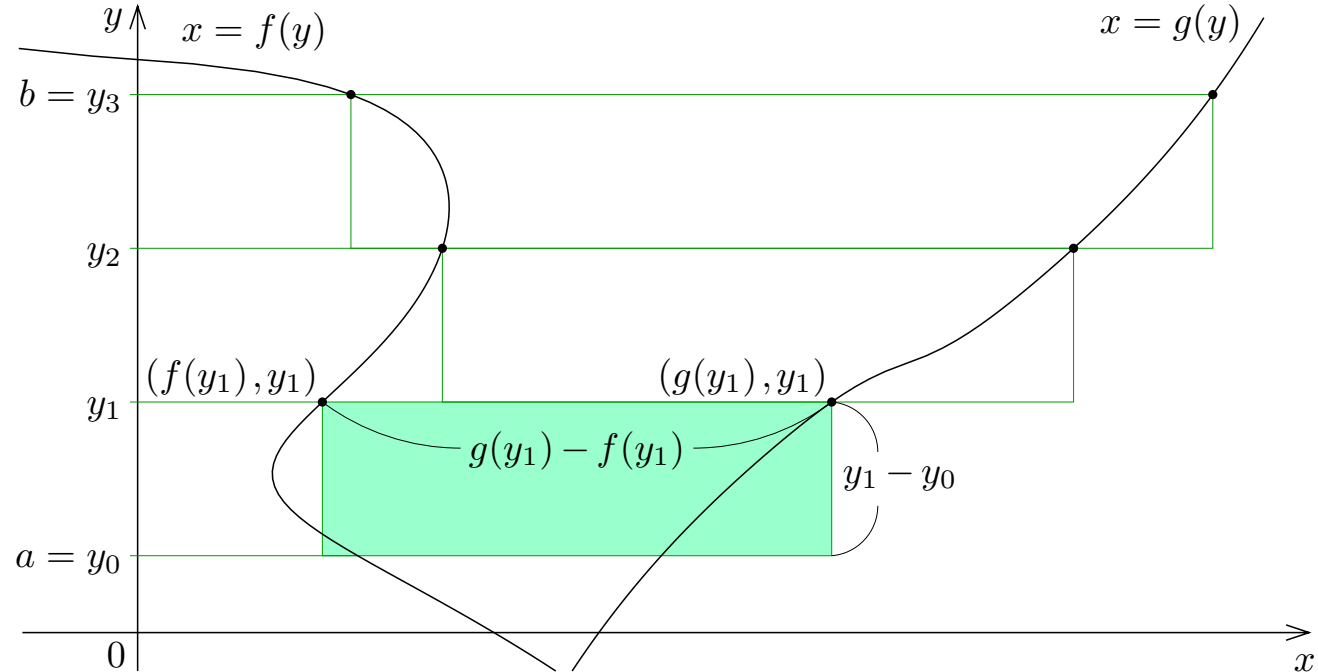
で表される領域を  $D$  の面積を考える.

例えば領域  $D$  が下図の明緑色の図形であるとする.



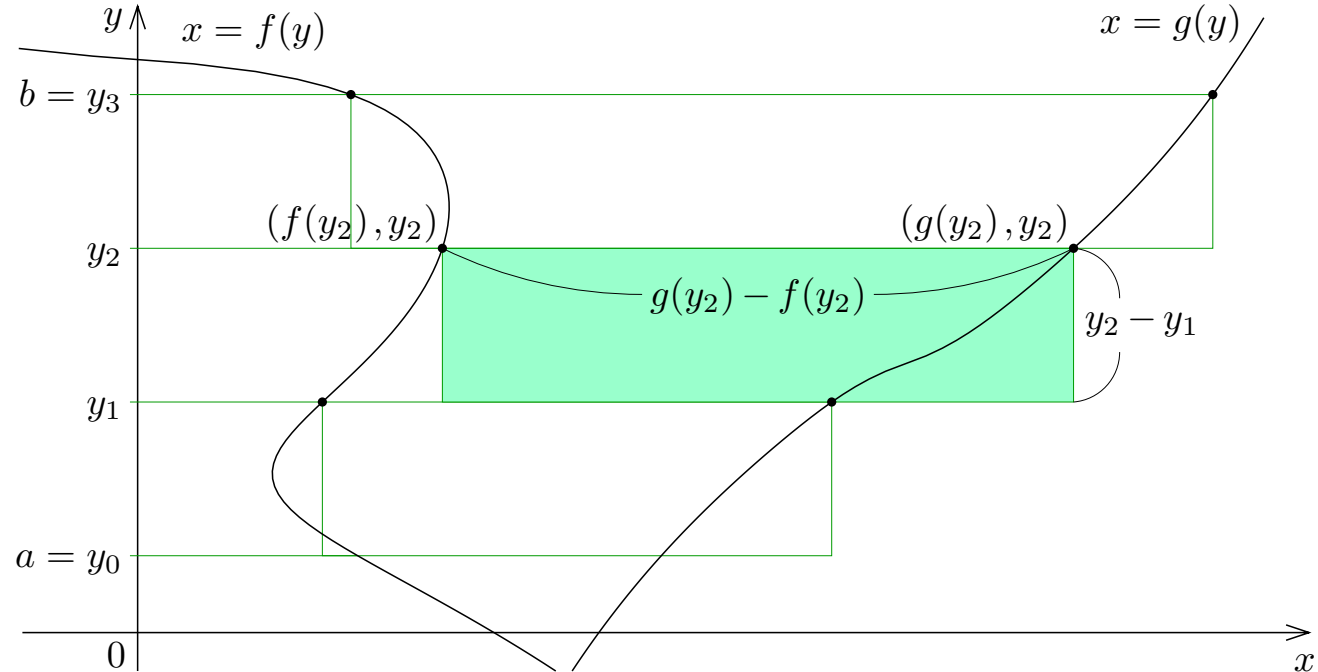
$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 = b$  である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3$  をとり、下図の状況を考える。





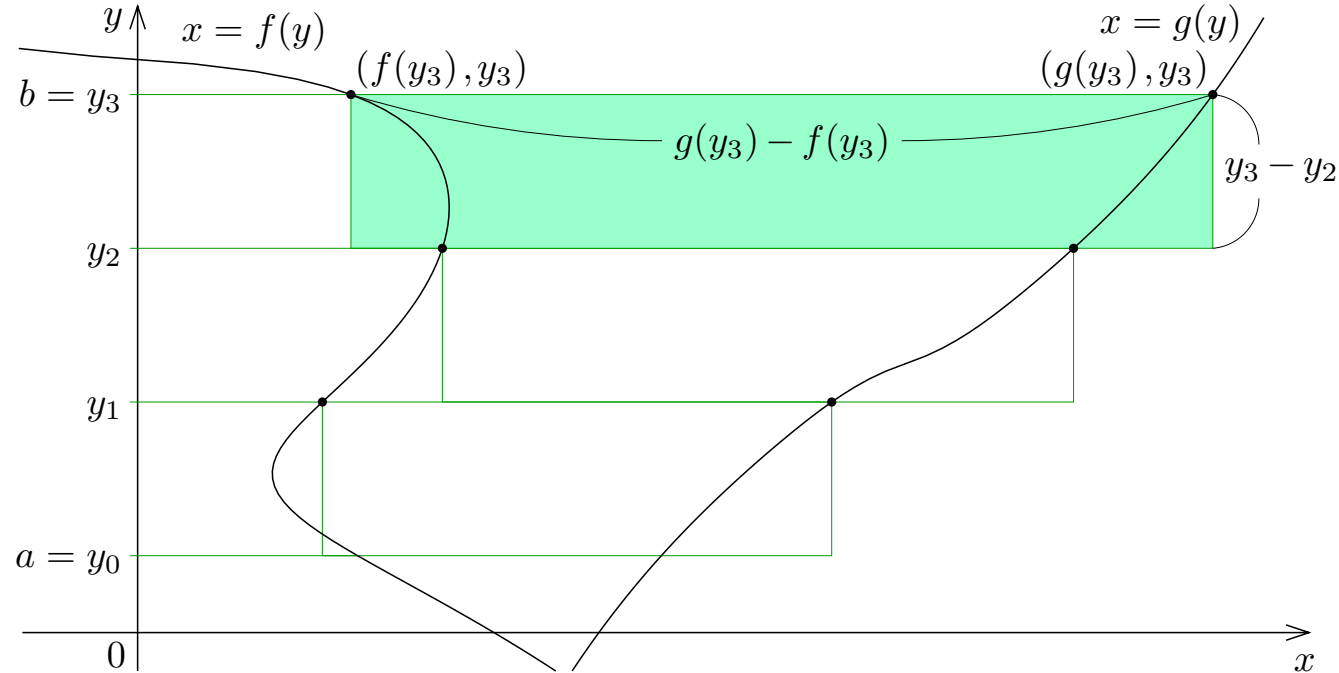
上図の明緑色の長方形の面積は

$$\{g(y_1) - f(y_1)\}(y_1 - y_0) .$$



上図の明緑色の長方形の面積は

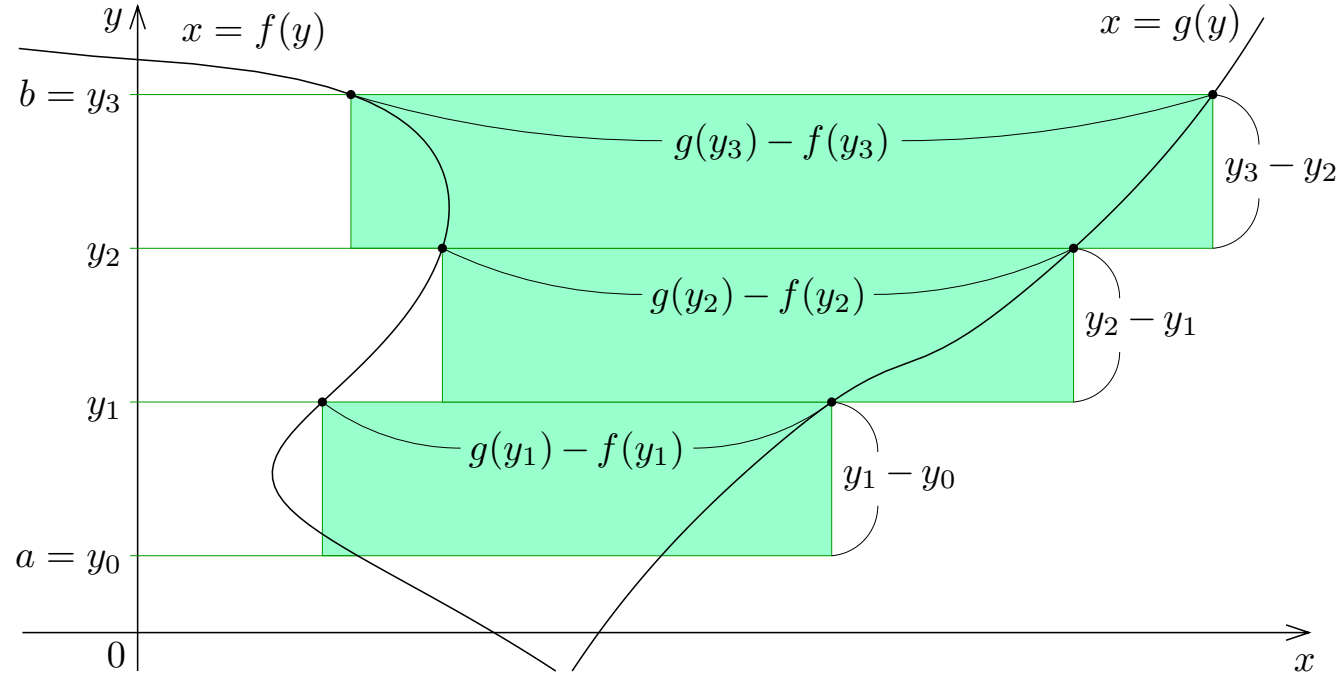
$$\{g(y_2) - f(y_2)\}(y_2 - y_1) .$$



上図の明緑色の長方形の面積は

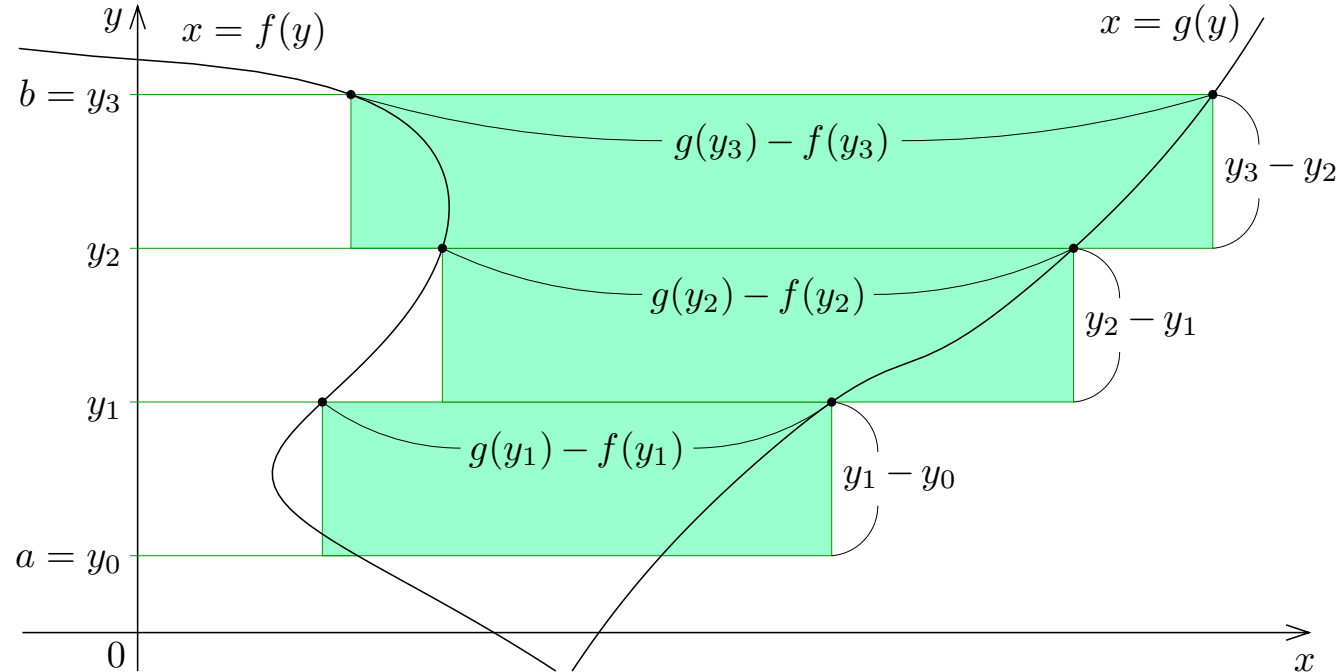
$$\{g(y_3) - f(y_3)\}(y_3 - y_2) .$$





上図の明緑色の 3 個の長方形を併せた図形の面積は

$$\{g(y_1) - f(y_1)\}(y_1 - y_0) + \{g(y_2) - f(y_2)\}(y_2 - y_1) + \{g(y_3) - f(y_3)\}(y_3 - y_2) .$$



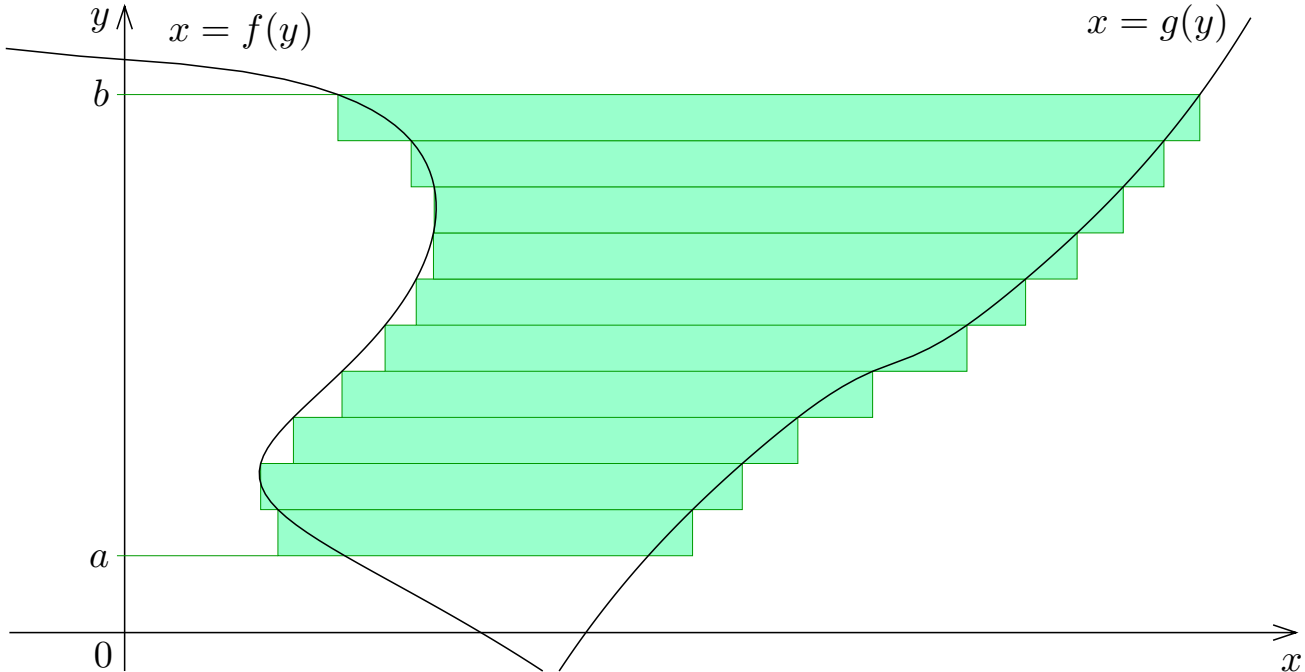
上図の明緑色の 3 個の長方形を併せた図形の面積  $S_3$  は

$$S_3 = \sum_{k=1}^3 [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})] .$$

長方形の個数を 10 にする.

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_9 \leq y_{10} = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_9, y_{10}$  をとり, 領域  $D$  の面積を 10 個の長方形を併せた図形の面積で近似する.



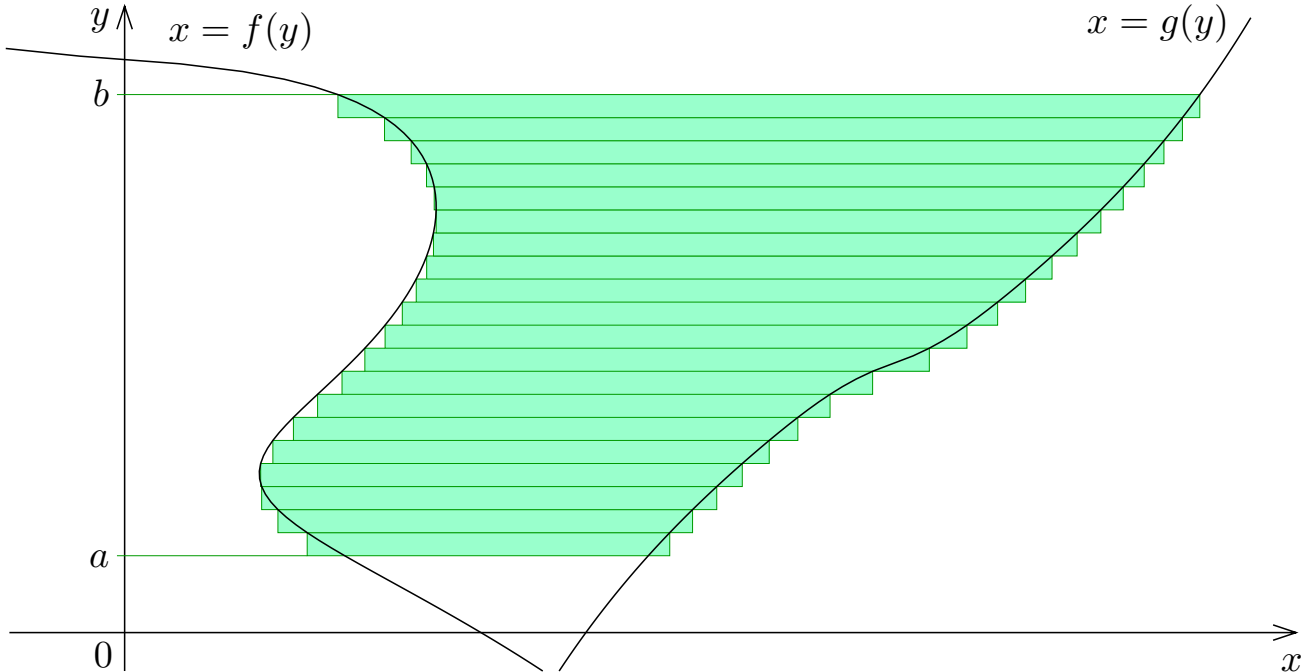
上図の明緑色の 10 個の長方形を併せた図形の面積  $S_{10}$  は

$$S_{10} = \sum_{k=1}^{10} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})] .$$

長方形の個数を 20 にする.

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{19} \leq y_{20} = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{19}, y_{20}$  をとり, 領域  $D$  の面積を 20 個の長方形を併せた図形の面積で近似する.



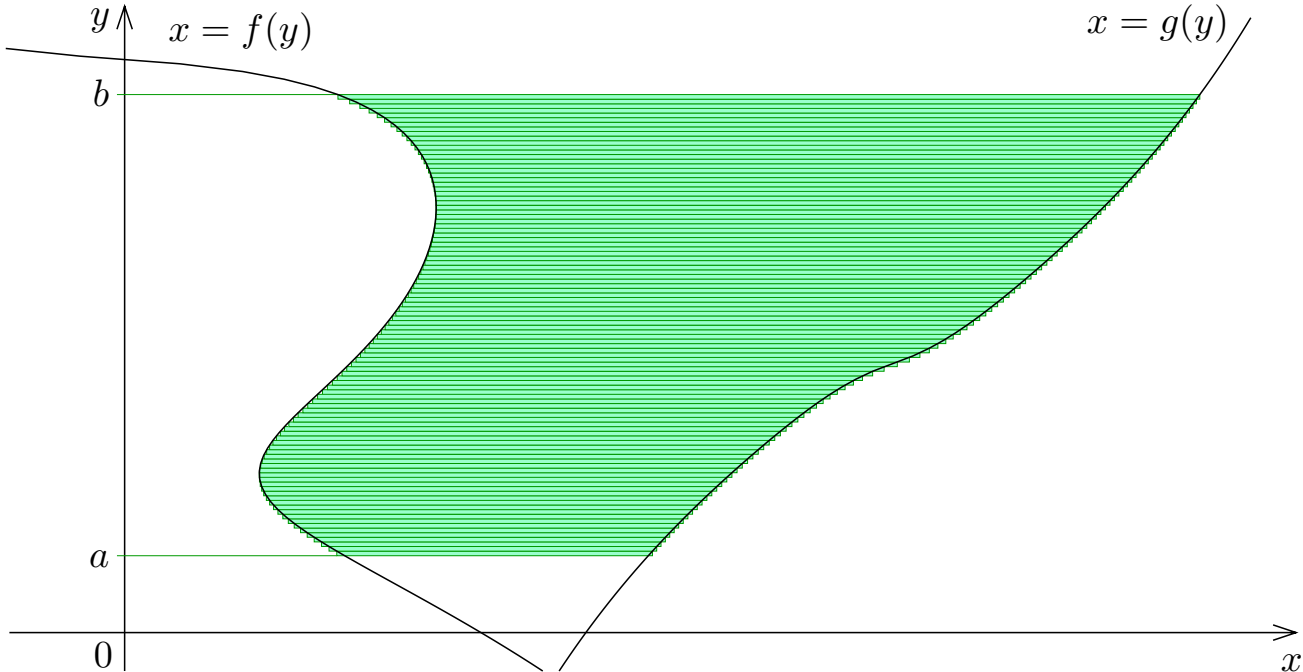
上図の明緑色の 20 個の長方形を併せた図形の面積  $S_{20}$  は

$$S_{20} = \sum_{k=1}^{20} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})] .$$

長方形の個数を 100 にする.

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{99} \leq y_{100} = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{99}, y_{100}$  をとり, 領域  $D$  の面積を 100 個の長方形を併せた図形の面積で近似する.

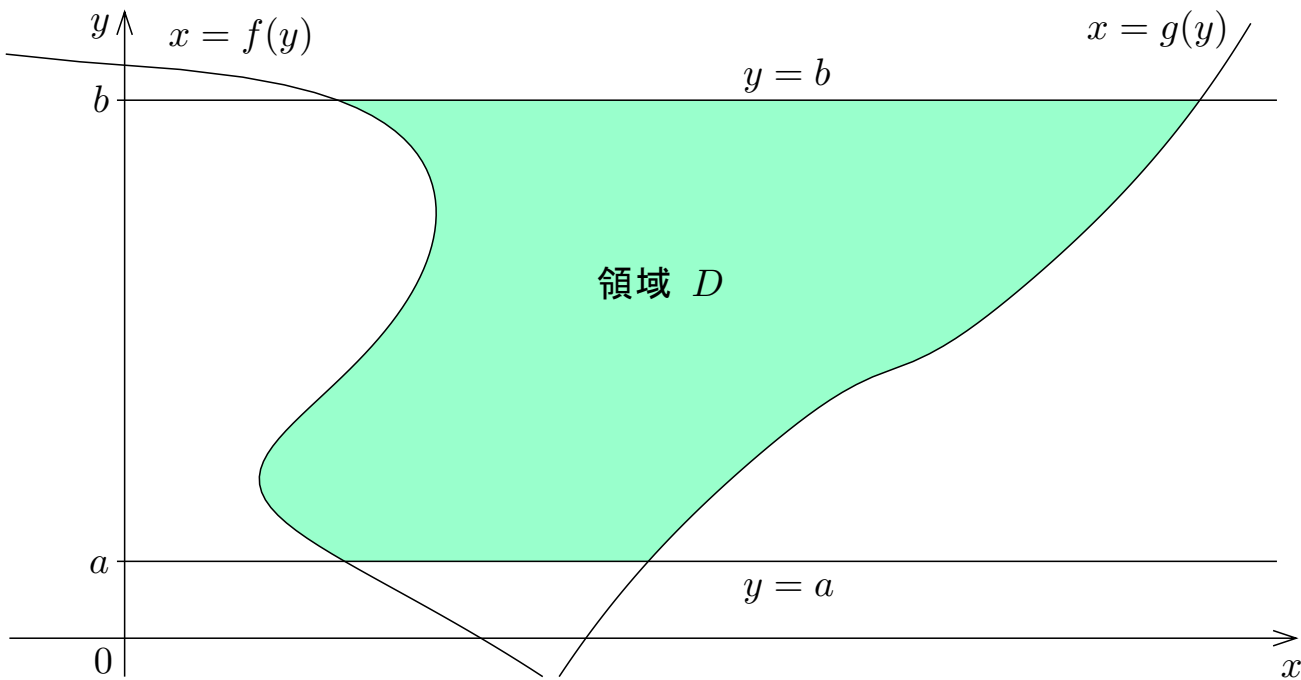


上図の明緑色の 100 個の長方形を併せた図形の面積  $S_{100}$  は

$$S_{100} = \sum_{k=1}^{100} [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})] .$$



このようにして長方形の個数を限りなく増やしていくと、長方形を併せた図形の面積は領域  $D$  の面積に限りなく近づく。



正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$  をとる. これまで述べてきたような  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n$  は

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})] .$$

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$  をとる. これまで述べてきたような  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n$  は

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})] .$$

これは関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和である.

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$  をとる. これまで述べてきたような  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n$  は

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})] .$$

これは関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和である.

$$\delta_n = \max\{y_1 - y_0, y_2 - y_1, y_3 - y_2, \dots, y_n - y_{n-1}\}$$

について,  $n \rightarrow \infty$  のとき  $\delta_n \rightarrow 0$  とする.

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$  をとる. これまで述べてきたような  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n$  は

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})] .$$

これは関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和である.

$$\delta_n = \max\{y_1 - y_0, y_2 - y_1, y_3 - y_2, \dots, y_n - y_{n-1}\}$$

について,  $n \rightarrow \infty$  のとき  $\delta_n \rightarrow 0$  とする. 長方形の個数  $n$  を限りなく大きくして一つ一つの長方形を限りなく薄くすると,  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  は領域  $D$  の面積に限りなく近づく.

正の各自然数  $n$  に対して,

$$a = y_0 \leq y_1 \leq y_2 \leq y_3 \leq \cdots \leq y_{n-1} \leq y_n = b$$

である実数  $y_0, y_1, y_2, y_3, \dots, y_{n-1}, y_n$  をとる. これまで述べてきたような  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n$  は

$$S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})] .$$

これは関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和である.

$$\delta_n = \max\{y_1 - y_0, y_2 - y_1, y_3 - y_2, \dots, y_n - y_{n-1}\}$$

について,  $n \rightarrow \infty$  のとき  $\delta_n \rightarrow 0$  とする. 長方形の個数  $n$  を限りなく大きくして一つ一つの長方形を限りなく薄くすると,  $n$  個の長方形を併せた図形の面積  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  は領域  $D$  の面積に限りなく近づく. よって領域  $D$  の面積はリーマン和  $S_n$  の極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  である.

領域  $D$  の面積は関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  の極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  である.

領域  $D$  の面積は関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\}(y_k - y_{k-1})]$  の極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  である. 関数  $f(y)$  と  $g(y)$  とが  $a$  から  $b$  まで積分可能なので, 関数  $g(y) - f(y)$  も  $a$  から  $b$  まで積分可能である.



領域  $D$  の面積は関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  の極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  である. 関数  $f(y)$  と  $g(y)$  とが  $a$  から  $b$  まで積分可能なので, 関数  $g(y) - f(y)$  も  $a$  から  $b$  まで積分可能である.  $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$  なので, 関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  は  $n \rightarrow \infty$  のとき定積分  $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$  に収束する:

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy .$$

領域  $D$  の面積は関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  の極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$  である. 関数  $f(y)$  と  $g(y)$  とが  $a$  から  $b$  まで積分可能なので, 関数  $g(y) - f(y)$  も  $a$  から  $b$  まで積分可能である.  $\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$

なので, 関数  $g(y) - f(y)$  のリーマン和  $S_n = \sum_{k=1}^n [\{g(y_k) - f(y_k)\} (y_k - y_{k-1})]$  は  $n \rightarrow \infty$  のとき定積分  $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$  に収束する:

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy .$$

故に, 領域  $D$  の面積は定積分  $\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$  である.

このようにして次の定理が成り立つ.

**定理** 実数  $a$  と  $b$  について  $a \leq b$  とする. また, 関数  $f$  と  $g$  とは  $a$  から  $b$  まで積分可能で, 区間  $[a, b]$  の各実数  $y$  について  $f(y) \leq g(y)$  とする.  $xy$  座標平面において連立不等式

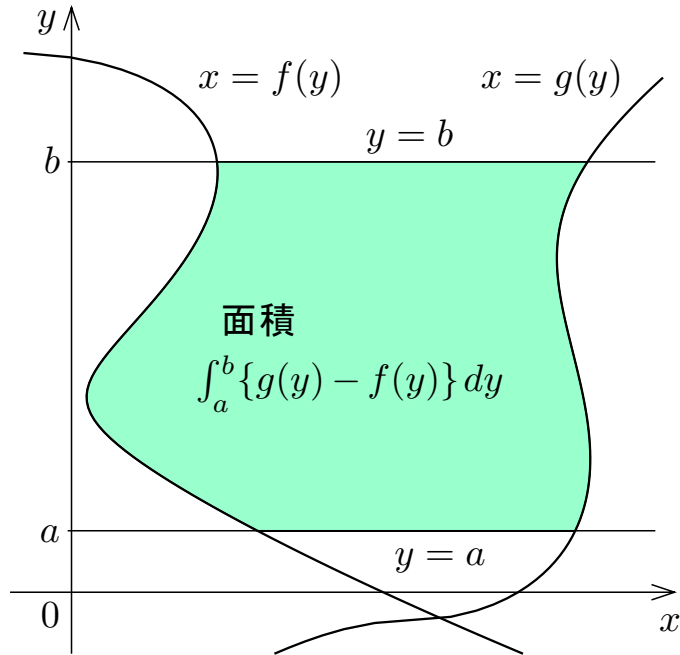
$$a \leq y \leq b \text{ かつ } f(y) \leq x \leq g(y)$$

で表される領域の面積は

$$\int_a^b \{g(y) - f(y)\} dy$$

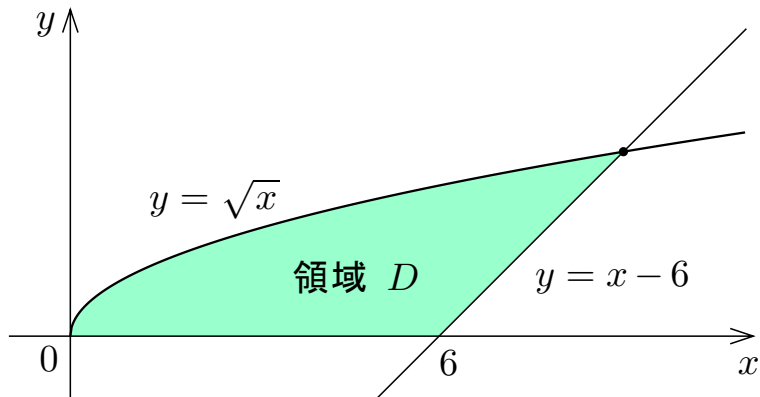
である.

この定理において, 領域の点の  $y$  座標の範囲と, その範囲で  $f(y) \leq g(y)$  であるかどうかには注意すること.



**例**  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める.

例  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める。



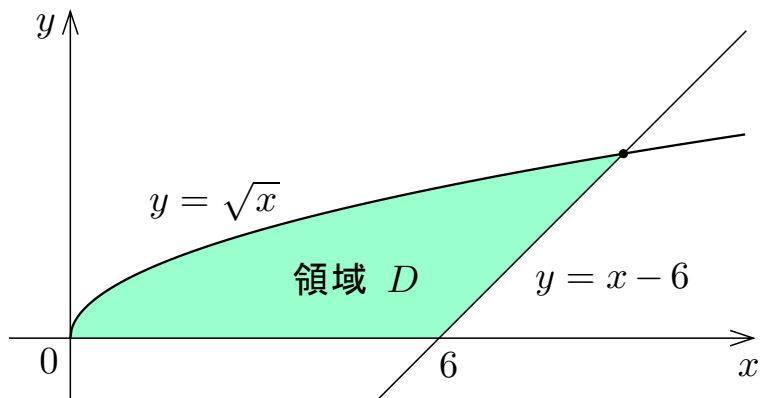
例  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める.

$x \geq 0$  かつ  $y \geq 0$  のとき

$$y = \sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

また,

$$y = x - 6 \iff x = y + 6 .$$



例  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める。

$x \geq 0$  かつ  $y \geq 0$  のとき

$$y = \sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

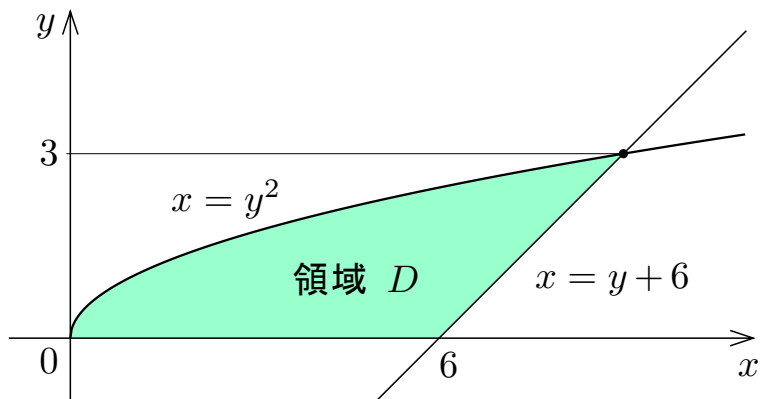
また,

$$y = x - 6 \iff x = y + 6 .$$

$x = y^2$  かつ  $x = y + 6$  とすると,  $y^2 = y + 6$ ,  $y = 3, -2$  ;

更に  $y \geq 0$  とすると  $y = 3$  .

領域  $D$  の点の  $y$  座標の範囲は  $0 \leq y \leq 3$  で, この範囲で  $y + 6 \geq y^2$  .



例  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める.

$x \geq 0$  かつ  $y \geq 0$  のとき

$$y = \sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

また,

$$y = x - 6 \iff x = y + 6 .$$

$x = y^2$  かつ  $x = y + 6$  とする

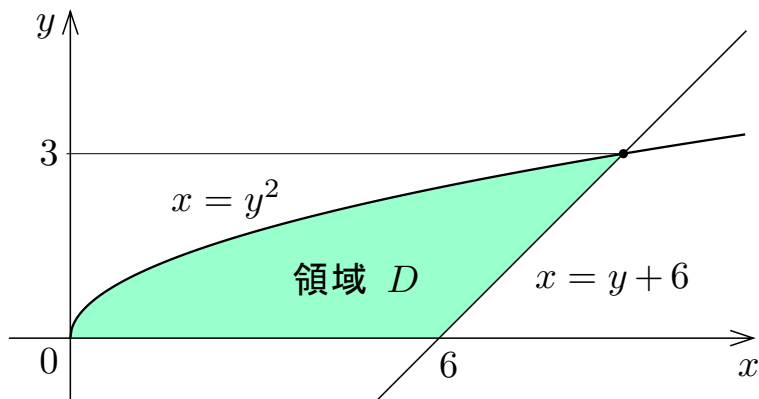
と,  $y^2 = y + 6$ ,  $y = 3, -2$  ;

更に  $y \geq 0$  とすると  $y = 3$  .

領域  $D$  の点の  $y$  座標の範囲は  $0 \leq y \leq 3$  で, この範囲で  $y + 6 \geq y^2$  . 領域

$D$  の面積は

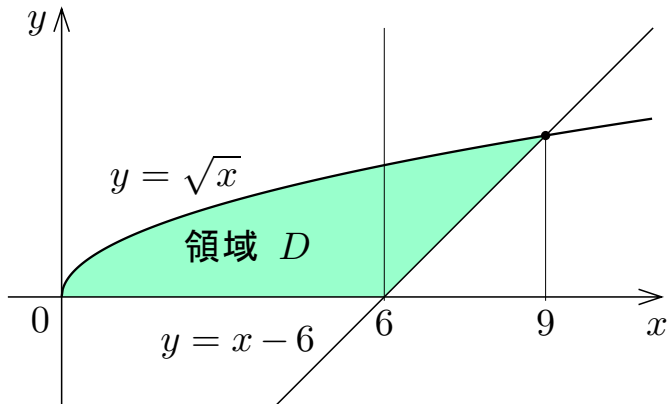
$$\int_0^3 (y + 6 - y^2) dy = \left[ \frac{1}{2}y^2 + 6y - \frac{1}{3}y^3 \right]_0^3 = \frac{27}{2} .$$





例  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める.

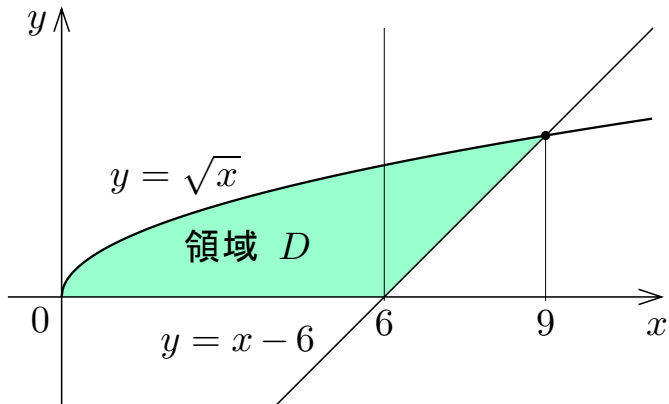
領域  $D$  の面積を  $x$  について積分して求めるには,  $D$  を  $0 \leq x \leq 6$  の部分と  $6 \leq x \leq 9$  の部分とに分けて計算する.



例  $xy$  座標平面において関数  $y = \sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = x - 6$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域  $D$  の面積を求める。

領域  $D$  の面積を  $x$  について積分して求めるには、 $D$  を  $0 \leq x \leq 6$  の部分と  $6 \leq x \leq 9$  の部分とに分けて計算する。

$$\begin{aligned} & \int_0^6 \sqrt{x} dx + \int_6^9 \{ \sqrt{x} - (x - 6) \} dx \\ &= \left[ \frac{2}{3} x \sqrt{x} \right]_0^6 + \left[ \frac{2}{3} x \sqrt{x} - \frac{1}{2} x^2 + 6x \right]_6^9 \\ &= 4\sqrt{6} + 6\sqrt{9} - \frac{81}{2} + 54 - 4\sqrt{6} + 18 - 36 \\ &= \frac{27}{2} . \end{aligned}$$



**問8.2.1**  $xy$  座標平面において関数  $y = -\sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = \frac{x}{2} - 4$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

$y = -\sqrt{x}$  のとき  $y \leq 0$  .

$x \geq 0$  かつ  $y \leq 0$  のとき

$$y = -\sqrt{x} \iff x = \quad .$$

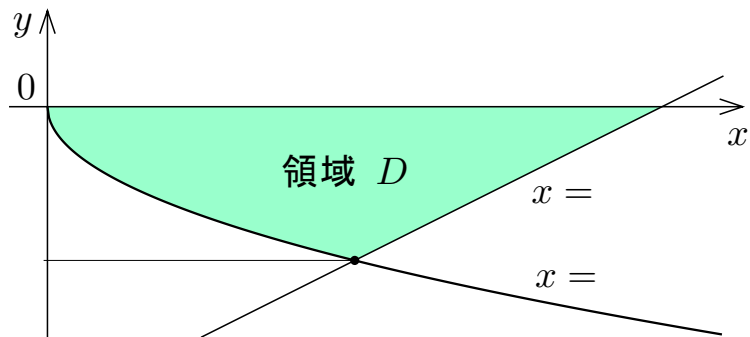
また,

$$y = \frac{x}{2} - 4 \iff x = \quad .$$

$x = \quad$  かつ  $x = \quad$  とす

ると,  $\quad = \quad$  ,  $y = \quad$  ; 更に  $y \leq 0$  とすると  $y = \quad$  . 領域  $D$  の点の  $y$  座標の範囲は  $\leq y \leq 0$  で, この範囲で  $\geq \quad$  . 領域の面積は

$$\int^0 ( \quad ) dy =$$



**問8.2.1**  $xy$  座標平面において関数  $y = -\sqrt{x}$  のグラフと関数  $y = \frac{x}{2} - 4$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

$y = -\sqrt{x}$  のとき  $y \leq 0$  .

$x \geq 0$  かつ  $y \leq 0$  のとき

$$y = -\sqrt{x} \iff x = y^2 .$$

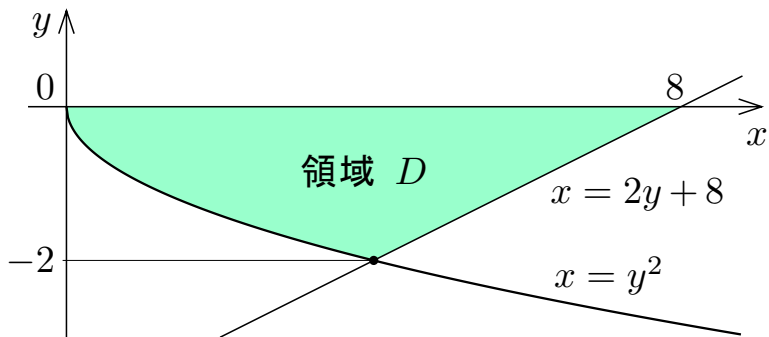
また,

$$y = \frac{x}{2} - 4 \iff x = 2y + 8 .$$

$x = y^2$  かつ  $x = 2y + 8$  とす

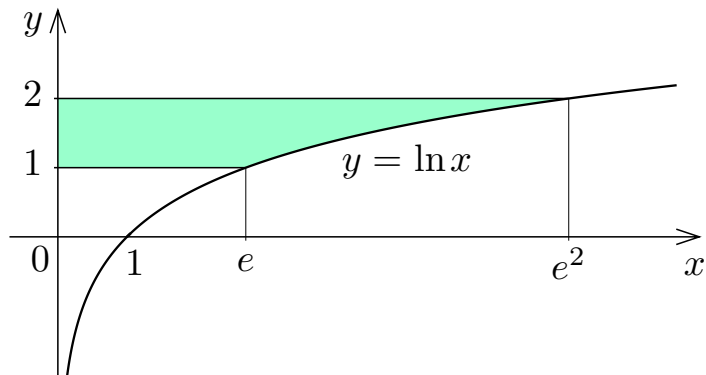
ると,  $y^2 = 2y + 8$  ,  $y = 4, -2$  ; 更に  $y \leq 0$  とすると  $y = -2$  . 領域  $D$  の点の  $y$  座標の範囲は  $-2 \leq y \leq 0$  で, この範囲で  $2y + 8 \geq y^2$  . 領域の面積は

$$\int_{-2}^0 (2y + 8 - y^2) dy = \left[ y^2 + 8y - \frac{1}{3}y^3 \right]_{-2}^0 = \frac{28}{3} .$$



終

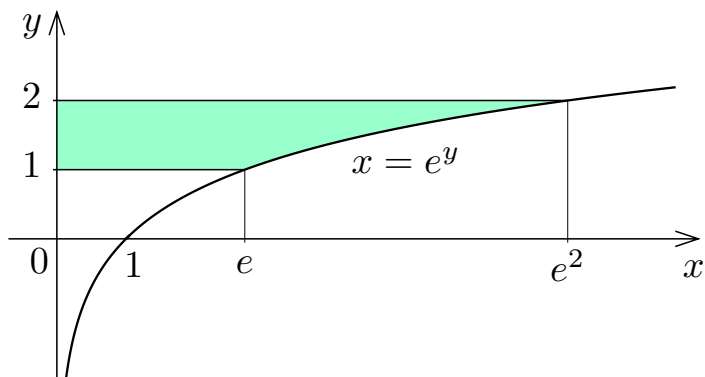
例  $xy$  座標平面において関数  $y = \ln x$  ( $x > 0$ ) のグラフと直線  $y = 1$  と直線  $y = 2$  と  $y$  軸とで囲まれる領域の面積を求める.



例  $xy$  座標平面において関数  $y = \ln x$  ( $x > 0$ ) のグラフと直線  $y = 1$  と直線  $y = 2$  と  $y$  軸とで囲まれる領域の面積を求める.

正の各実数  $x$  及び各実数  $y$  について

$$y = \ln x \iff x = e^y .$$

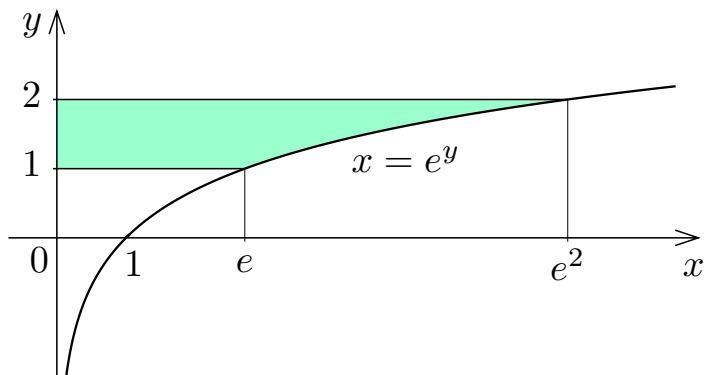


例  $xy$  座標平面において関数  $y = \ln x$  ( $x > 0$ ) のグラフと直線  $y = 1$  と直線  $y = 2$  と  $y$  軸とで囲まれる領域の面積を求める.

正の各実数  $x$  及び各実数  $y$  について

$$y = \ln x \iff x = e^y .$$

領域の点の  $y$  座標の範囲は  $1 \leq y \leq 2$  . 各実数  $x$  について  $e^x > 0$  .



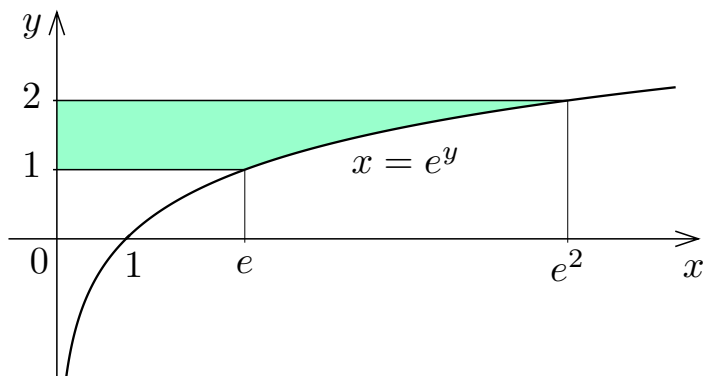
例  $xy$  座標平面において関数  $y = \ln x$  ( $x > 0$ ) のグラフと直線  $y = 1$  と直線  $y = 2$  と  $y$  軸とで囲まれる領域の面積を求める.

正の各実数  $x$  及び各実数  $y$  について

$$y = \ln x \iff x = e^y .$$

領域の点の  $y$  座標の範囲は  $1 \leq y \leq 2$  . 各実数  $x$  について  $e^x > 0$  . 領域の面積は

$$\int_1^2 e^y dy = [e^y]_1^2 = e^2 - e .$$



終



問8.2.2  $xy$  座標平面において関数  $y = e^x$  のグラフと直線  $y = e$  と直線  $y = e^2$  と  $y$  軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

各実数  $x$  及び正の各実数  $y$  について

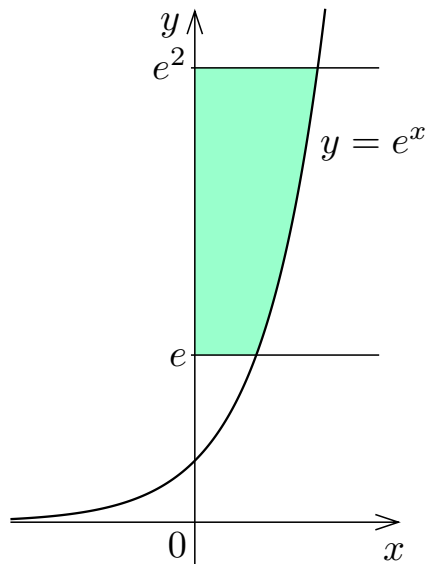
$$y \geq e^x \iff x \leq$$

領域を表す連立不等式は

$$e \leq y \leq e^2 \quad \text{かつ} \quad x \leq$$

領域の面積は

$$\int dy =$$



問8.2.2  $xy$  座標平面において関数  $y = e^x$  のグラフと直線  $y = e$  と直線  $y = e^2$  と  $y$  軸とで囲まれる領域の面積を求めよ.

各実数  $x$  及び正の各実数  $y$  について

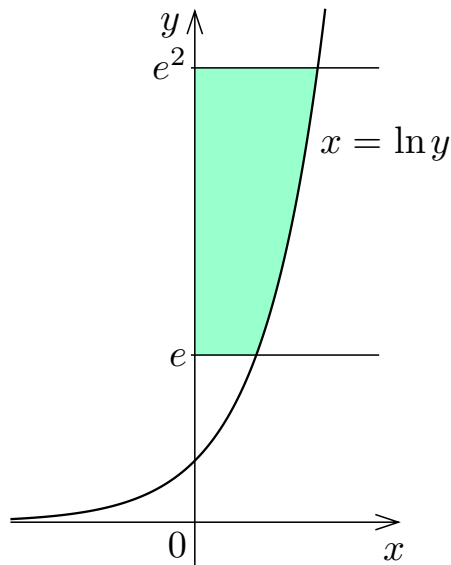
$$y \geq e^x \iff x \leq \ln y .$$

領域を表す連立不等式は

$$e \leq y \leq e^2 \text{ かつ } 0 \leq x \leq \ln y .$$

領域の面積は

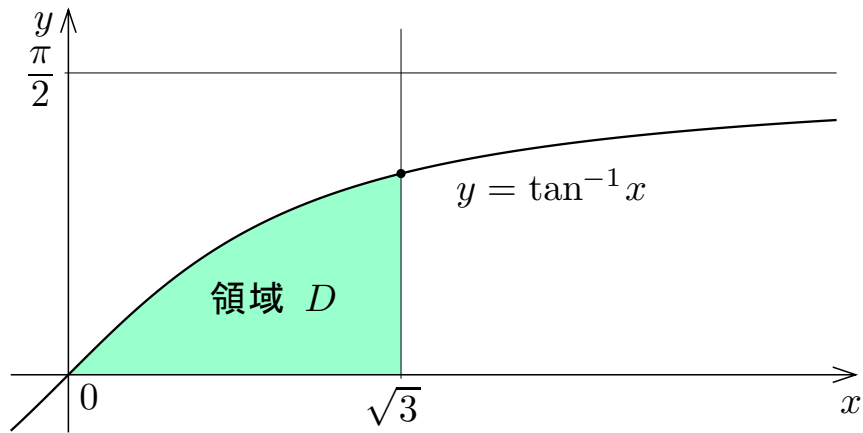
$$\begin{aligned} \int_e^{e^2} \ln y \, dy &= [y \ln y - y]_e^{e^2} \\ &= 2e^2 - e^2 - (e - e) \\ &= e^2 . \end{aligned}$$



終

**例**  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.

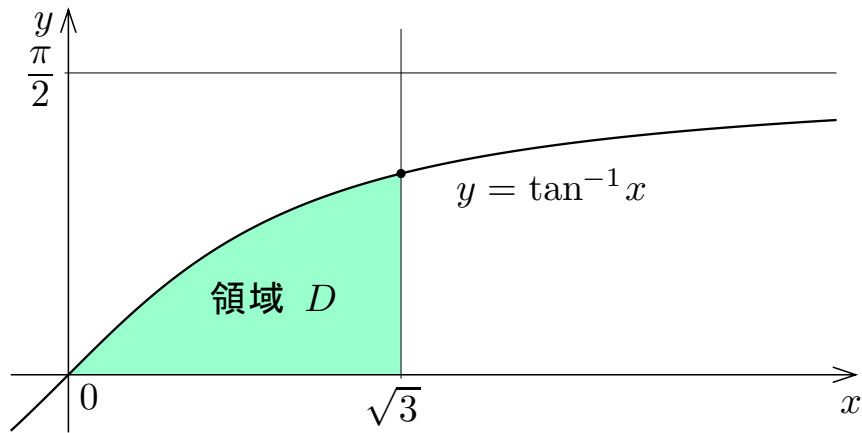
例  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.



例  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$  のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$



例  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.

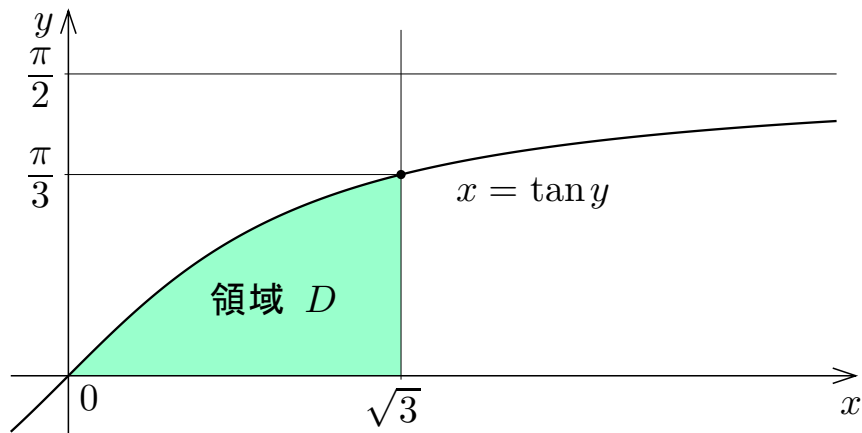
$$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2} \text{ のとき}$$

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

関数  $y = \tan^{-1} x$  につ

いて,  $x = \sqrt{3}$  のとき

$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$



例  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$  のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

関数  $y = \tan^{-1} x$  につ

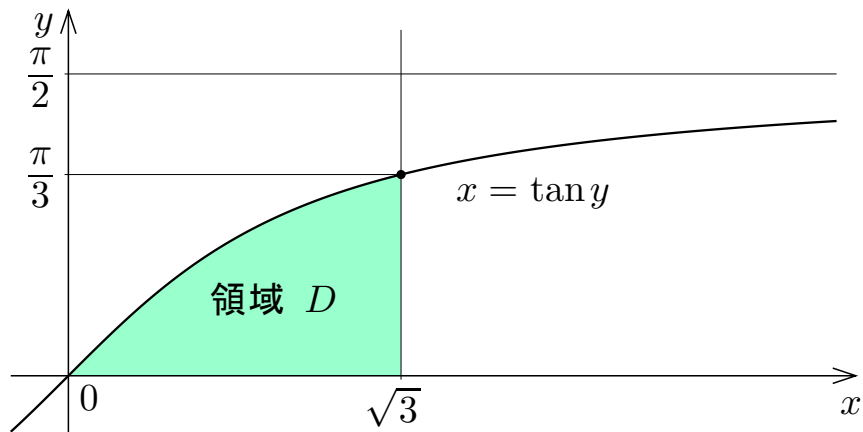
いて,  $x = \sqrt{3}$  のとき

$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$

領域  $D$  の  $y$  座標の範囲は

$$0 \leq y \leq \frac{\pi}{3} \text{ であり, この}$$

範囲で  $\tan y \leq \sqrt{3}$  .



例  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$  のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

関数  $y = \tan^{-1} x$  につ

いて,  $x = \sqrt{3}$  のとき

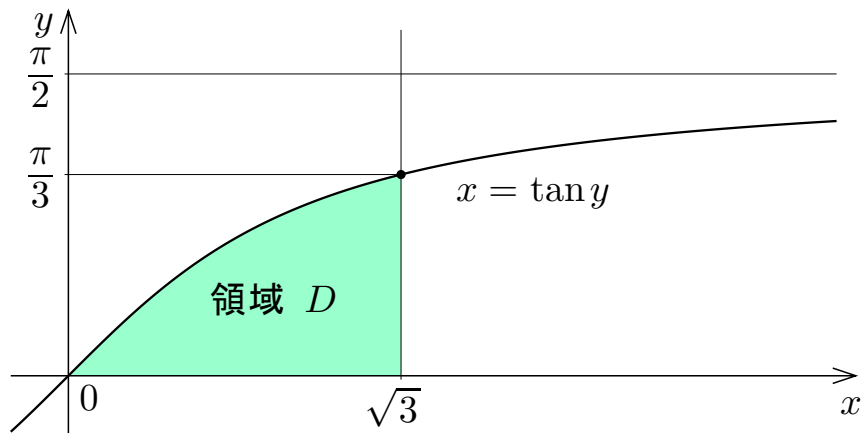
$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$

領域  $D$  の  $y$  座標の範囲は

$$0 \leq y \leq \frac{\pi}{3} \text{ であり, この}$$

範囲で  $\tan y \leq \sqrt{3}$  . 領域  $D$  の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} (\sqrt{3} - \tan y) dy = \left[ \right]_0^{\frac{\pi}{3}} =$$





例  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \sqrt{3}$  と  $0 \leq y \leq \tan^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求める.

$-\frac{\pi}{2} < y < \frac{\pi}{2}$  のとき

$$y = \tan^{-1} x \Leftrightarrow \tan y = x .$$

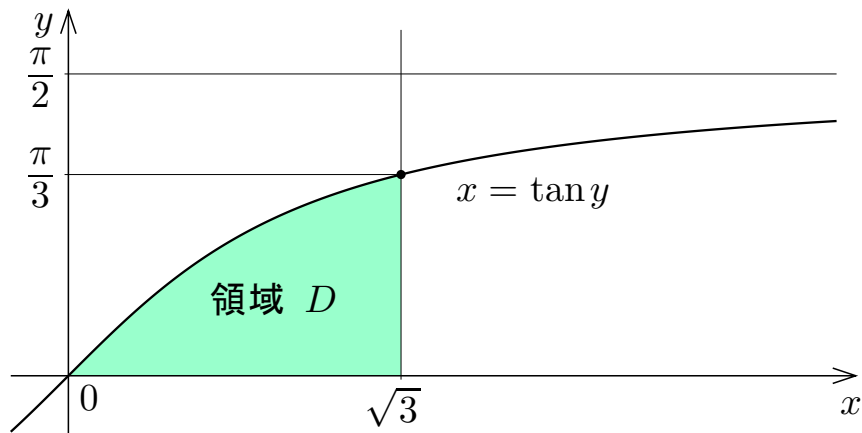
関数  $y = \tan^{-1} x$  について,  $x = \sqrt{3}$  のとき

$$y = \tan^{-1} \sqrt{3} = \frac{\pi}{3} .$$

領域  $D$  の  $y$  座標の範囲は  $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$  であり, この

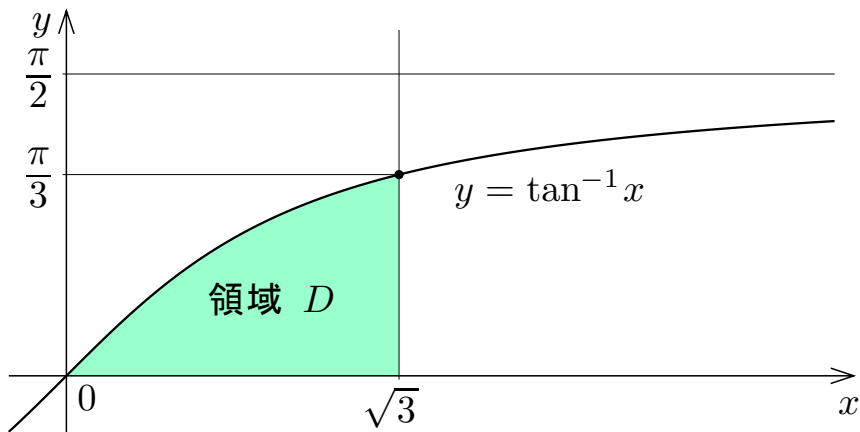
範囲で  $\tan y \leq \sqrt{3}$  . 領域  $D$  の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} (\sqrt{3} - \tan y) dy = [\sqrt{3} y + \ln |\cos y|]_0^{\frac{\pi}{3}} = \frac{\sqrt{3} \pi}{3} + \ln \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3} \pi}{3} - \ln 2 .$$



領域  $D$  の面積を次のようにも計算できる.  $x$  の関数  $y = \tan^{-1} x$  を考える.  $x = \tan y$ ,  $\frac{dx}{dy} = \frac{d}{dy} \tan y = \sec^2 y$  なので  $dx = \sec^2 y dy$ .  $x = 0$  のとき  $y = 0$ .  $x = \sqrt{3}$  のとき  $y = \frac{\pi}{3}$ . 領域  $D$  の面積は

$$\begin{aligned}
 & \int_0^{\sqrt{3}} \tan^{-1} x dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} y \sec^2 y dy \\
 &= \left[ y \tan y - \int \tan y dy \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\
 &= \left[ y \tan y + \ln |\cos y| \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\
 &= \frac{\pi}{3} \tan \frac{\pi}{3} + \ln \left( \cos \frac{\pi}{3} \right) \\
 &= \frac{\sqrt{3} \pi}{3} - \ln 2 .
 \end{aligned}$$



問8.2.3  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$  と  $0 \leq y \leq \sin^{-1}x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求めよ.

$-1 \leq x \leq 1$  かつ  $-\frac{\pi}{2} \leq y \leq \frac{\pi}{2}$  のとき,

$$y = \sin^{-1}x \iff x = \sin y.$$

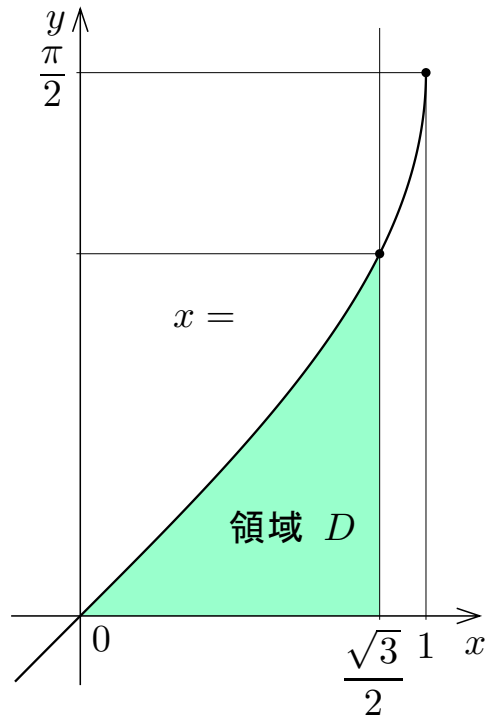
関数  $y = \sin^{-1}x$  について,  $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$  のとき

$y = \frac{\pi}{3}$  . 領域  $D$  の点の  $y$

座標の範囲は  $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$  で, この範囲で

$x = \sin y$  . 領域  $D$  の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} (\sin y) dy =$$



問8.2.3  $xy$  座標平面において不等式  $x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$  と  $0 \leq y \leq \sin^{-1} x$  との連立で表される領域  $D$  の面積を求めよ.

$-1 \leq x \leq 1$  かつ  $-\frac{\pi}{2} \leq y \leq \frac{\pi}{2}$  のとき,

$$y = \sin^{-1} x \iff x = \sin y .$$

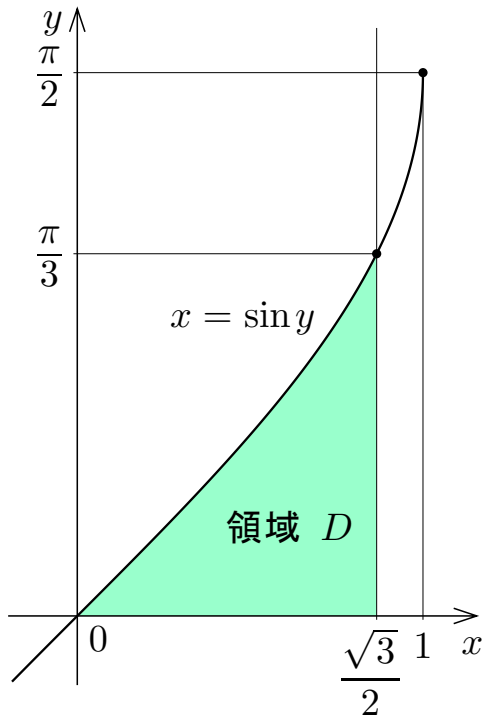
関数  $y = \sin^{-1} x$  について,  $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$  のと

き  $y = \sin^{-1} \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\pi}{3}$  . 領域  $D$  の点の  $y$

座標の範囲は  $0 \leq y \leq \frac{\pi}{3}$  で, この範囲で

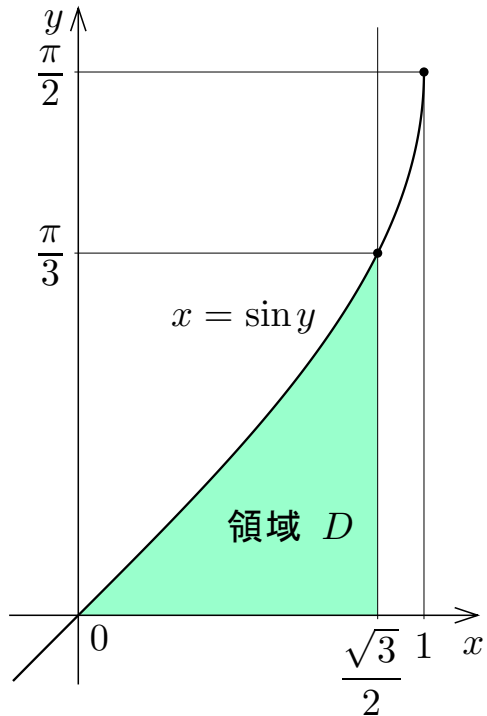
$\sin y \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$  . 領域  $D$  の面積は

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} \left( \frac{\sqrt{3}}{2} - \sin y \right) dy = \left[ \frac{\sqrt{3}}{2} y + \cos y \right]_0^{\frac{\pi}{3}}$$



領域  $D$  の面積は

$$\begin{aligned}\int_0^{\frac{\pi}{3}} \left( \frac{\sqrt{3}}{2} - \sin y \right) dy &= \left[ \frac{\sqrt{3}}{2} y + \cos y \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \frac{\pi}{3} + \frac{1}{2} - 1 \\ &= \frac{\sqrt{3} \pi}{6} - \frac{1}{2} .\end{aligned}$$



領域  $D$  の面積を次のようにも計算できる.

$x$  の関数  $y = \sin^{-1} x$  を考える.  $x = \sin y$  ,  
 $\frac{dx}{dy} = \frac{d}{dy} \sin y = \cos y$  なので  $dx = \cos y dy$  .

$x = 0$  のとき  $y = 0$  .  $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$  のとき

$y = \frac{\pi}{3}$  . 領域  $D$  の面積は

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \sin^{-1} x dx &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} y \cos y dy \\ &= \left[ y \sin y - \int \sin y dy \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \left[ y \sin y + \cos y \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\ &= \frac{\pi}{3} \sin \frac{\pi}{3} + \cos \frac{\pi}{3} - \cos 0 \\ &= \frac{\sqrt{3} \pi}{6} - \frac{1}{2} . \end{aligned}$$

